

事務事業評価表（公共施設）

評価対象年度	平成 25 年度
1次評価日（主幹等）	26年3月31日
2次評価日（課長等）	26年3月31日

1 事業名	通園訓練施設まゆみ園管理事業			コード	51103	
2 担当部課	部等	健康福祉部	課等	子ども課	作成者	伊藤 恵
3 事業概要	目的体系	基本目標	ともに支えあい、健やかに暮らせるまち			
		政策	子育て支援	施策	子育て支援の充実	
		予算科目	地域子育て事業費	業務委託	一部委託	
		実施義務	あり（義務的・標準的事業）	国県補助	なし	
		設置条例	岡谷市通園訓練施設まゆみ園設置条例			

●事業の内容（D0）

4 施設の概要・設置目的	*対象者（誰のため）、意図（どのような状態にしたいのか）		
施設の概要（簡潔に）	保護者とともに心身の発達に支援を必要とする児童の機能訓練及び日常生活に必要な能力を得るための訓練を行う。また、保護者への家庭における訓練方法の指導、療育に関する相談支援を行う。		
目的	対象者	市内在住で、発達に特に支援を必要とする乳幼児およびその家族	
	意図	児童の育成の助成	

5 施設の管理運営状況

指定管理者	岡谷市社会福祉協議会	25年度指定管理料	9,451,151 円
施設における通常業務	保護者とともに、心身の発達に支援を必要とする児童の機能訓練及び日常生活に必要な能力を得るための訓練を行う。また、保護者への家庭における訓練方法の指導、療育に関する相談支援を行う。		
事業の実施内容	<p>（25年度に施設で行った運営事業・自主事業など）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育：園内保育、散歩、遠足、交流保育（公立保育園）、季節行事、日常生活自立支援、基本的な生活習慣指導、リトミック 年12回 ・言語訓練：言語聴覚士による個別指導 年12回 ・発達相談：障害児地域療育等支援事業 年5回、児童相談所相談 年6回、信濃医療福祉センター心理・作業療法士 ・健康診断：岡谷病院小児科医師 年12回 ・その他：園だより・行事予定表の発行、参観日、個別懇談等 		
前年度の課題への対応	施設の空き時間（3時以降）の利用について、社会福祉協議会とのさらなる協議が必要であることから、引き続き検討していく。		

6 施設の利用状況

*②・③はどちらかの欄に記入

区分	23年度	24年度	25年度	26年度(予算)
① 施設稼働率	100.0%	100.0%	100.0%	
年間開設日数（日）	235	233	235	235
1日の開設時間（時間）	6	6	6	6
年間利用可能時間（時間）	1,410	1,398	1,410	1,410
年間利用実績（時間）	1,410	1,398	1,410	
② 年間利用者数（人）	826	1,563	1,462	1,462
有料利用者数	0	0	0	0
無料利用者数	826	1,563	1,462	1,462
減免措置者数				
③ 年間利用件数（件）	0	0	0	0
有料利用件数				
無料利用件数				
減免措置件数				
④ 1日あたり利用者数、件数	3.5	6.7	6.2	6.2
⑤ 施設利用状況の説明				

7 コストの推移

* この事業にかかる費用（人件費は、1人あたり年間800万円で換算）

[単位：円]

区分	23年度	24年度	25年度	26年度(予算)
① 直接事業費	9,078,470	9,122,677	9,484,973	10,173,080
経常経費	9,078,470	9,122,677	9,484,973	10,173,080
臨時的経費	0	0	0	0
* 臨時的経費の説明				
区分	23年度	24年度	25年度	26年度(予算)
② 人件費	800,000	800,000	800,000	800,000
正規職員の人数(人)	0.10	0.10	0.10	0.10
③ 合計コスト(①+②)	9,878,470	9,922,677	10,284,973	10,973,080
前年度比		100.4%	103.7%	106.7%
財源	9,878,470	9,922,677	10,284,973	10,973,080
一般財源				
内訳	0	0	0	0
特定財源				
* 特定財源の説明	-			
④ 施設使用料年間収入額	0	0	0	0
⑤ 年間減免措置額	0	0	0	0
⑥ 受益者負担割合	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
⑦ 活動一単位あたりコスト	11,959	6,348	7,035	
前年度比		53.1%	110.8%	
⑧ コストに関する補足説明				

●事業の評価 (CHECK)

8 妥当性評価

* 妥当性＝行政がこの事業を行う必要性はあるか。

妥当性

高い

評価項目	はい	いいえ
① 現時点で、税金を投入して積極的に関与すべき重要な分野である。	1	
② 民間（企業、NPO、市民団体等）へ委ねることが難しく、市が行う必要がある。	1	
③ 民間（企業、NPO、市民団体等）が行うサービスと類似・競合していない。	1	
④ 国・県の事業、市が行っている他の事業と類似・重複していない。	1	
⑤ この事業の効果は広く市民に還元され、特定者の利益にはなっていない。	1	

9 有効性評価

* 有効性＝施設の利用状況（項目6／住民の満足度）は向上しているか。

有効性

標準

評価項目	はい	いいえ
① この事業が属する施策において、この事業の優先度が高い。	1	
② 社会情勢の変化や市民ニーズを把握し、事業の内容に反映している。	1	
③ この事業の目的を達成する上で、現在の方法が最も効果的で低コストである。	1	
④ 施設の利用者が増加した。	1日あたり利用者数、件数 前年度比 92.7%	0
⑤ 施設使用料収入が増加した。	施設使用料年間収入額 前年度比 0.0%	0

●改善の内容 (ACTION)

10 具体的な課題と改善

課題	(施設の有効活用、施設サービスの向上、利用状況の向上を図る上で、現在課題になっていること)
	<ul style="list-style-type: none"> 施設の空き時間の有効活用 今後の施設がめざす方向性についてあわせて検討していく必要がある。
改善方法	(上記の課題をふまえて26年度以降に実施する、具体的な改善の内容)
	<ul style="list-style-type: none"> 児童が退園した後の利用について、再度投げかけていく。 発達支援センター設置を検討する中で、まゆみ園のあり方についてもあわせて検討していく。
改善開始時期	平成26年4月～

●次年度の計画 (PLAN)

11 次年度の方針	継続して実施	12 施策評価による26年度の優先度 *H24年度施策評価表より転記すること	C
13 大規模修繕の予定			
予定事業費		円	予定時期
内容			